

学校支援を積極的に進める

地域と協働して進める学校支援

春日井市立藤山台小学校 P T A

1 はじめに

本校は、昭和43年に春日井市高蔵寺ニュータウンで初めて開校した小学校である。団地建設が進むと共に人口が急増し、開校数年後には藤山台東小、西藤山台小が相次いで分離して開校した。しかし、平成の始めごろからニュータウンの人口が減少し始めたことにより、平成25年から3年間をかけて段階的に3校が統合され、校舎が新しく建設された。



【藤山台小学校全景】

本校は新校舎建設に併せて校舎内に設置された地域連携室を拠点として、学校地域連携協議会が学校支援活動を進めている。また、統合により一小一中となった校区の特色を生かし、小中の連携も積極的に進めている。

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

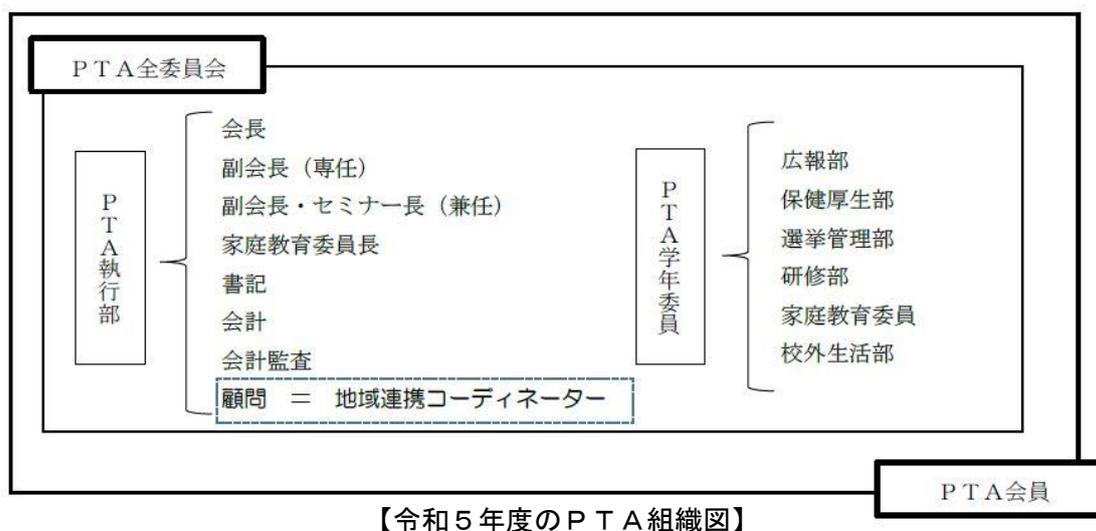
本校のP T Aは、児童の健全な成長を図ることを目的として、保護者と教師の協力の下、家庭及び学校の教育の発展と、地域の教育環境改善・向上を図るために必要な活動を行っている。令和2年頃からコロナ禍により活動の多くが制限されたが、令和5年度は活動を再開しつつ、改めてコロナ前の活動内容や実施方法の精選・見直しが行われるようになった。

また、本校では統合以来、「子どもたちの育ちや学び」を支援することをテーマに、学校地域連携協議会が様々な取り組みを推進している。しかし、それらの活動は子育てを終えた世代を中心に支えられており、今後は現役保護者世代を含むより広い世代の参加者を募っていくことが求められている。

そこで、これからの時代に求められるP T A活動を精選・見直しながら、次の2つのねらいをもって、活動を推進した。

- ① 現役保護者世代としてのP T A会員を対象に、P T Aと地域連携室のつながりを強化するため学校地域連携協議会が主催するボランティア活動への参加募集を行い、幅広い世代の地域住民・保護者が協働して参加できるようにする。
- ② 現役保護者世代が地域連携室の活動に参画し、緊密にP T Aと地域が連携する体制をつくり上げる。

(2) P T Aの組織



3 実践活動の概要

(1) 令和5年度に実施したPTA活動

- ① 「ゼロの日」立哨・親子ふれあい登校
本校では、児童の登下校の見守り活動を重層的に行っている。

毎朝、地域住民からなる「藤っ子応援団」が横断歩道や通学路の危険箇所立哨し、「ゼロの日」（毎月20日と30日）や式日はPTA校外生活部がより広範な地域で見守り活動を行っている。また、毎月10日には、全保護者に可能な範囲で児童の登校を見守る「親子ふれあい登校」の活動への参加を学年通信等で呼びかけている。



【ゼロの日立哨】

また、毎月10日には、全保護者に可能な範囲で児童の登校を見守る「親子ふれあい登校」の活動への参加を学年通信等で呼びかけている。

PTA執行部や校外生活部はこれまでも定期的に行われる生徒指導連絡協議会、地域連携連絡協議会に参加してきたが、令和4年度からは、校外生活部の代表が毎月定例の藤っ子応援団情報交換会にも参加し、校区の課題や状況等の情報共有を行った。

- ② ベルマーク運動

本校では、通年で回収ボックスを各教室に設置し、これまでも児童にベルマークの回収を呼びかけてきた。コロナ禍の2年間は、係（保健厚生部）が集まって集計作業を行うことがなかなかできなかったが、ベルマーク運動の理念はコロナ禍でこそ重要であると考え、可能な範囲で活動を継続し、令和4年度にも高圧洗浄機やホワイトボードを購入した。地域住民



【ベルマーク集計作業】

の方が個人で集めたベルマークを「学校に役立ててほしい」と持参されることもあり、この活動が地域に浸透していることがわかる。

③ 広報誌発行

P T A活動の様子を多くの会員に知ってもらい、活動の裾野を広げるためには情宣活動が重要であると考え。コロナ禍の2年間は発行が見合わされたが、令和4年度からは広報部が中心となり、広報「ふじやまだい」の発行を再開し、P T A活動の見える化を進めた。また前期号では地域連携協議会が主催している各種ボランティア活動に参加したP T A会員の様子を複数紹介し、P T Aと地域との協働についても積極的に情報発信した。

④ 教育講演会（ふれあい教育セミナー）

コロナ禍の2年間は開催を見合わせたが、令和4年度から「ふれあい教育セミナー」として教育講演会を再開した。できるだけ身近な教育課題をテーマとして選び、講師にスクールカウンセラーや情報モラル外部講師を招いて、明日からの家庭教育に役立つ研修となるよう、企画を工夫した。

(2) 学校地域連携協議会と協働したP T A活動

年度始めに、P T A会員対象に学校地域連携協議会のボランティア活動参加への募集を行い、今年度もそれぞれに一定数の申し込みがあった。これにより、子育てを終えた世代を中心に支えられていた学校地域連携協議会の活動に、より広い世代の地域住民が関わるきっかけをつくることができた。また、P T A副会長が定例の地域連携協議会に参加したり、地域連携コーディネーターをP T A執行部の顧問として配置したりすることで、緊密に地域連携協議会とP T Aが連携をとる仕組みをつくった。

① 図書ボランティア

コロナ禍では控えていたメディアセンター（図書室）の開館を令和4年度から再開した。同じく再開した地域連携室の図書ボランティアの活動には、P T A会員も加わり、時には近隣の公共図書館館長の指導を得ながら、新刊図書の貸し出し準備や、古い蔵書の修繕活動を行った。こうした図書ボランティア活動は教職員校務負担軽減に大きく貢献した。



【図書ボランティア】

また、以前行っていた読み聞かせも再開し、児童が図書に親しむ機会を提供することができた。

② 花壇ボランティア

地域連携協議会の花壇ボランティアはコロナ禍でも継続していたが、令和4年度には、P T A会員へボランティア参加の呼びかけを行い、保

護者が花壇整備作業にも加わるようになった。ときには児童と一緒に、苗植えなどの活動に取り組んだ。花壇ボランティアが組織される以前は、校務主任が中心になって花壇整備を行っていたが、本ボランティアにより花壇整備に関する教職員の校務負担が大きく軽減した。

③ 夏休みの読書感想文の書き方講座・夏休み学習会

夏休み中の子どもの居場所づくりの一環として、学校地域連携協議会が2つのイベントを開催した。読書感想文の書き方講座には、図書ボランティアでも連携している近隣の公共図書館館長を講師として招いた。また夏休み学習会は、元教員の地域住民や地域の公立高校の生徒を指導者として招いて開催した。いずれのイベントにも、PTA役員がボランティアとして参加し、受付やプリント準備、児童の見守り等を行った。



【夏休み学習会】

④ トイレボランティア

コロナ禍においては児童によるトイレ清掃が見合わされ、週1回の専門業者による清掃がない日は、毎日教職員が児童の下校後に、トイレ清掃・消毒を行ってきた。この作業は教職員の大きな負担になっていた。そうした状況に対し、地域連携室の呼びかけで、週2回トイレ清掃・消毒のボランティアが行われた。令和5年度には児童によるトイレ清掃が再開されたが、児童は掃除に慣れていないため、月2回トイレボランティアが児童と一緒にトイレ清掃を行い、掃除の仕方等を児童に指導している。このようにコロナをきっかけに始まったトイレボランティアの活動は、現在も形をかえて継続されている。



【トイレボランティア】

4 おわりに

本研究では、PTA会員へボランティア活動参加の募集をかけることで、学校地域連携協議会のボランティア活動に現役保護者世代が一定数参加するようになり、幅広い世代の地域住民・保護者が協働して学校支援の活動に参加するきっかけとなった。また、令和5年度は現役PTA会員1名が執行部顧問と地域コーディネーターの双方に籍を置いて活動することで、緊密にPTAと地域が連携する体制をつくることができた。

これからも、さらに幅広い世代の地域住民・保護者に活動に参加してもらえるよう学校支援活動の裾野を広げていきたい。